

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人 恭生会		
事業所名	グループホーム和朗園		
所在地	大阪府高槻市井尻2丁目37-8		
自己評価作成日	平成 29年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JieyosyoCd=2770901342-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 11月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛」と「和」の理念のもと、利用者の今までのあたり前の日常を維持することを目標に、共同生活の中で自らの役割を担い、達成感や満足感を得られるよう自信を維持できる援助に努めている。
また、併設型のグループホームである強みを活かす為、一人の利用者を和朗園全体として支援出来る様な体制づくりに取り組んでいる。
センター方式を取り入れ、利用者の生活歴や現状の把握に努め、サービス内容をより個別化し、調理・掃除・洗濯などの日常的な家事はもとより、買い物や、外出の機会を確保、また、ご家族・地域の方々の協力のもと花見、夏祭り、餅つきなど季節に応じた催し、ありふれた家庭での日常を提供できるよう取り組んでいる。総合病院が母体である為、緊急時対応についても安心感を得て頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体に設立された社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。総合介護福祉施設内にあり、地域包括支援センター、特養、ケアハウス、デイサービスセンター等、8つの事業所を併設し連携した運営を進めています。ホームは2・3階に位置し玄関は1階にあります。和朗園は「わらうてしあわせ 楽しい人生」を表現しており、利用者が明るく自分を主張しながら生活できる環境作りをしています。ホーム内は広く日当たりが良く、ベランダで干し柿を作る等、家庭的な取り組みをしています。利用者は穏やかで自立度が高く、外出、買い物、調理、洗濯、掃除など得意な家事にも取り組みながら、落ち着いた日常を過ごしています。居室に馴染みの家具を持ち込んで過ごしやすく工夫し、パソコンや携帯電話等を活用して家族や友人とのコミュニケーションを継続しています。職員はクラブ活動等毎日の行事を企画して、利用者が楽しみながら過ごせるように支援しています。母体法人と連携し、24時間365日の医療連携支援を行い利用者の健康管理に努めています。非常災害訓練、幼稚園児や学童との交流、ふれ合い喫茶参加などで、地域連携を進めながら質の高いサービス提供をめざしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設としての理念があり、文書化し各所に掲示している。特に家庭的な雰囲気を提供する事で安心して過ごしてもらえるよう配慮している。又、新入職時にも説明し、浸透に努めている。理念実践の為、研修を行う事で職員育成に努めている。	ホーム独自の理念として『私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。そして利用者様の人権を尊重し、家庭的な雰囲気の下で、地域の皆様に信頼され愛される施設づくりを目指します。』を掲げています。理念はホーム玄関やユニット玄関等に掲示して共有しています。職員はミーティング等で理念を唱和し理解を深めながら、年間の事業方針として理念を具体化し日々実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の喫茶・学習会・清掃活動、学校行事等へ参加をしている。必要時には、協賛の形でも取り組んでいる。定期的に、広報誌の配布も行い、交流を図っている。	職員は月間行事計画に地域行事を取り入れて、利用者が地域行事に参加できるようにしています。地域の清掃活動や学校行事、月1回地域で開かれるエンゼル喫茶にも積極的に参加しています。また、法人主催の納涼祭や防災訓練等にも地域から参加してもらえるよう、定期的に法人広報誌を配布し、ホーム行事にも地域住民の参加が得られるようにしています。地域ボランティアの協力を得て、クラブ活動やレクリエーション活動の充実を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	受け入れてもらえる雰囲気作りが出来にくい地域活動への参加、広報誌や運営推進会議等を通じて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・住民・行政職員などの構成で、2ヶ月に1度開催し、議事録の掲示もしている。会議では事業所からの報告だけでなくにならないように、資料等配布しながら参加者が意見を出しやすい雰囲気作りを努め、意見を活かせるようにしている。	運営推進会議は、開催規程に沿って2ヶ月に1回、年6回の定期開催をしています。構成メンバーは利用者・家族、市職員、市社会福祉協議会職員、地域の代表、ホーム職員等です。毎回多くの利用者・家族が参加しているのが特色です。最近の会議ではホーム職員が利用者の生活状況、行事・レクリエーションの開催実績、事故発生状況、インフルエンザの予防、今後の予定等を報告し、参加者の意見を聞いて運営に活かしています。年間を通しては利用者、家族の満足度調査結果、認知症ケア・看取り・嚙下評価の取り組み状況、年度の事業計画、高槻市介護保険事業者集団指導報告、外部評価結果の報告等、毎回テーマを工夫し、会議が有効なものになるよう取り組んでいます。議事録は玄関に掲示し供覧しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>定期的に市の介護相談員が来所し、入居者からの意見を聞き、助言・意見交換を行っている。</p>	<p>管理者は、市福祉指導課職員を窓口としてホーム運営についての報告や相談をしています。また、市主催の介護保険事業者集団指導や認知症イベント等に参加して協力関係を築いています。事故報告については、その都度、書面で提出しています。市介護相談員2名が毎月2回来訪し、利用者と対話して意見等を聞いています。介護相談員は職員に利用者の状況等を報告し、意見交換しています。職員は市介護相談員から得た助言や提案をホーム運営に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。周辺症状が強く出る方については、専門医との連携で対応する様にしている。また、拘束によるリスクや言葉による拘束についても研修会を行う事で理解を深め、自分達の取り組みを見直す機会を作っている。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアの重要性を認識し、詳細なマニュアルを作成して職員間で共有しています。職員は法人が主催する定期的な内部研修に参加し、研鑽を積んでいます。特別に認知症の周辺症状が強く出る利用者については、専門医の指導を受けて支援方法を検討し、身体拘束をしないケアを実践しています。職員が利用者の外出意向を感じた時は、ベランダで気分転換を図る、散歩に同行する等、閉塞感の無い生活支援に努めています。現在、ホームの各ユニット玄関は安全性を考慮して日中も施錠している状況です。</p>	<p>自分の意志で開けることができない玄関の施錠については、安全性を確保しながら、日中は「鍵をかけないケア」が実現できるよう職員間で取り組むことが求められます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を開催し、意識の向上に努めている。又、職員のメンタルヘルスも考慮し特定の職員だけに負担が溜まらないように連携を意識している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修を年1回以上実施しており、権利擁護に関する制度について管理者、職員が学ぶ機会がある。又、実際に家族の高齢化から成年後見制度について相談支援を行い、調整している家族もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には入居前に時間をかけて十分に説明を行っている。家族等も納得してもらっている。文言の分かりにくい時にはパンフレット等も補足材料として使用し、より理解を深めてもらう様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に介護相談員が来所している。運営推進会議・来園時の声かけ等により、意見や苦情などを受け入れられる雰囲気づくりに勤めている。また、意見箱を設置、アンケートの実施を行い、より多くの意見を取り入れる様に努めている</p>	<p>管理者と職員は、家族の信頼と協力を得て支援していくことの大切さを認識し、日々取り組んでいます。毎月家族に利用者の状況を記載した手紙を送付し、年4回写真中心のホーム便り『ひととき』を発行して暮らしぶりを伝えています。家族の訪問時には利用者の状況を報告し、意見や要望等を確認して支援に活かしています。運営推進会議には利用者や多くの家族が参加して要望等についても話し合っています。ホームでは、毎年利用者と家族の満足度調査を実施し、運営に活かしています。調査の集約結果は家族等に公表しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや連絡ノートを活かし、職員の意見や提案を聞き入れる工夫をしている。毎日のミーティング内で職員からの意見を聞き日々の業務に反映している。又、個人面談を実施し、日頃から互いに話す機会を大切に、思いを知ることにも努めている。</p>	<p>管理者は職員の意見や提案を大切に、日々の利用者支援やホーム運営に活かしています。職員は、毎日の昼ミーティングや毎月のフロアカンファレンスで自由に意見交換し提案をしています。毎日のミーティング内容はパソコン内の連絡ノートで、フロアカンファレンス内容は議事録で、全職員に周知しています。管理者と職員は、年1回の個人面談の機会に、仕事上の悩みや個人的な要望等を話し合っています。</p>	<p>管理者は利用者満足度を高めることで、さらに職員のやりがい感が高まり、質の高いサービス提供につながると考えています。ミーティング等で利用者支援についての課題を共有し、施設内職員研修を定期的に行うことで、認知症ケアに関する職員間の理解を深め、さらに「利用者が生きがいを感じられるようなケア」につなげる予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>充分とは言えないが、より向上に向け努めている。 認知症ケアへの理解を深め、多面的な考え方をすることで、利用者の生きがいに繋がるケアを行い、やりがいに繋げていきたい。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設全体の研修委員会や内・外部研修の案内を掲示し、自己啓発、資質向上の為に参加を促している。外部研修で学んだ知識の伝達研修もしている。経験・習熟度による個別研修も実施している。又、外部研修への参加が難しい職員へは施設内で複数回に分けて同様の研修を行なう事も調整している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>不十分ではあるが、外部研修の一環として他施設での実習があり、そこで施設の見学や意見交流する機会がある。また、グループ内で連携を調整する委員会も発足しており、職種間で他施設へ実習する機会も設けている。学んだことを、ケアの実践に活かし、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時には出来るだけ本人・家族で見学に来て頂き、実際に見てもらって事で不安の解消を図っている。又、本人家族の思いを聞き、書面等を使用して分かりやすく説明を行い、説明を受けて納得してもらった方に申し込んで頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族との面談・施設見学を含め、その後も密に連絡を取ると共に、担当ケアマネとも連携をとり、不安なこと、求めていることを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所状況や本人の能力に合わせて、本人が一番必要として安心して生活を営むことが出来る環境へ支援の為に、他のサービスや施設への案内・提案や趣味嗜好なども勘案しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事の仕方や昔からの習慣、草花の名前・調理等、教えていただくことを主体にしている。又、本人の趣味嗜好を確認して得意としている事を取り入れた生活を提供する事を心掛けている。外食・ウィンドウショッピング等、一緒に外の空気に触れていただく機会も多くしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と面会時や電話連絡でケアへの取り組みについて相談し、馴染のある習慣や落ち着ける環境等、共に協力して本人を支えていく関係を築けるように努めている。外出や行事等に家族も参加をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>それまでの生活で培った地域関係を大切にし、良い関係が継続できるようにしている。また、知人の面会の受け入れ、家族協力の下の外泊等、入所＝特別な生活にならないよう今までの生活が継続出来る様に努めている。</p>	<p>ホームでは利用者が馴染みの家具等を自由に持ち込めるように支援して、落ち着いて過ごせるようにしています。携帯電話の持参も自由で、外部とのつながりが途切れないようにしています。年賀状等を出す際の支援、電話の取りつぎや公衆電話活用時の支援等、家族や大切な人とのつながりが途切れないように配慮しています。同法人のデイサービス利用者や特養入居家族とも面会できるように支援しています。家族の協力を得て墓参りにも行けるように、利用者の気持ちに沿った細やかな対応をしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係に合わせ、座席の配慮・趣味の共有などで、関わりあえるよう努めている。又、フロア間でも交流を図り馴染みの関係作りを意識している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も希望がある場合、継続して相談に乗れるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への関わりの中で思いを傾聴し、望んでいる生活や、大切にしている事に気づき、自立支援を図る為に出来ること、やりたい事についてさりげない支援をこころがけている。居室環境も、なじみ・思い出を大切に出来るよう、家族にも働き掛けている。	職員は日常の会話や表情、しぐさから利用者の思いや願いをくみ取り、「私の姿と気持ちシート」に記録して職員間で共有し、支援に活かしています。職員は利用者が思いを言葉で表現できない場合でも、そぶりや表情から意向を察知して、きめ細やかな対応を心がけています。利用者の意向が察知できない場合には、家族と相談をしながら利用者本位に支援を進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わりのある関係者より情報を得てその都度センター方式を更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に出来る事や望んでいる事を引き出し、把握する様にしている。日常の何気ない会話や仕草等の観察を通して把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに家族の協力を得るなど、関係者に協力を依頼しながら、現状の介護内容とすりあわせを行い課題の抽出とケアの方針を考えている。</p>	<p>介護計画書は利用者・家族の希望や意見を面談、電話等で確認し、職員間で話し合って原案を作成しています。介護計画書案はサービス担当者会議で検討し、必要な場合には医師、看護師、家族等と相談しています。介護計画書案を作成後、利用者家族に説明して了承サインをもらっています。介護計画書は実施記録を活かして毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしています。状態が急変した場合にはその都度見直し、状況に沿ったプランを作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や実施内容について、個別に記録し、職員間で情報共有する事で、時系列で評価を行い一元的にならないよう見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の状況に応じ、出来るだけ通院送迎・外出などの支援を含めた、生活の質を高める事柄に対しての支援には柔軟に取り組んで行うように努めている。又、併設事業所との協力も行ないながら、和朗園全体で支援出来る様に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の案内を受けて、出来るだけ地域イベントを含め、交流・支援環境を作れるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続できるように情報提供等、必要な支援をしている。又、併設クリニック・系列母体の病院との協力体制も確立できており、どちらも選択して頂ける様にしている。	入居面談時に利用者・家族の希望を確認し、希望に沿った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。ホームでは同法人併設クリニックや系列病院とも協力して24時間365日、必要な医療が受けられるよう医療連携支援体制を整備しています。また、定期的な健康診断を実施し、異常の早期発見と利用者の健康維持に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、看護師に日常の健康管理について相談を行い、必要に応じて受診の必要性を判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中の状況について、同意を得たうえで家族や病院関係者と連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>疾患等においてはグループホーム利用が困難になること等を想定して、時々家族とも話し合っている。系列施設との体制を確立しており、地域で支援できるようにすることで、本人・家族の安心感も得られるようにした。又、看取りの体制も少しずつ構築しており、重度の医療的な支援が無い場合には終末期のケアを行う体制も整えている。</p>	<p>入居面談時に重度化した場合の対応について説明し、希望があれば「重度化した場合における対応にかかる指針」に沿って支援しています。希望が無い場合には、あらかじめ終末期の対応について相談し、特別養護老人ホームへの入所申し込み等についても説明しています。重度化した場合の対応としては、その都度、利用者の状況を確認し、家族や医師と相談して利用者に最も適した療養の場を確保できるようにしています。職員にはターミナルケアについての研修を行い、「グループホームにおける看取りマニュアル」に沿った終末期支援に取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当普及員による普通救命講習を開催している。また、急変時の初期対応マニュアルを準備している。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施している。利用者も参加し、実際に避難している。グループホームでの夜間想定訓練も実施。</p>	<p>総合介護福祉施設全体として消防署と連携し、年に2回の防災避難訓練を実施しています。訓練時には近隣にも呼びかけ、参加してもらうなど地域連携を進めています。非常災害時の備蓄については飲料水や食料品、介護用品等を施設全体で管理し同建物4階に保管しています。現在、グループホーム用として、直接管理している備蓄品は無い状況です。</p>	<p>緊急時のあらゆる状況を想定して、水等の備蓄品は一部グループホーム内に保管してはいかがでしょうか。併せて、備蓄リストの作成が望まれます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な接遇は基より、常に利用者一人ひとりの人格・人権を考え、自尊心を大切にすように対応している。又、職員研修・誓約書による体制も敷いている。	ホームでは利用者を人生の先輩として尊敬し、馴れ馴れしい対応にならないように配慮しています。接遇を重視して職員研修を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を行うよう、日頃から職員間で注意喚起しています。個人情報に記載した書類やデータ等は厳重に保管しています。守秘義務については採用時の誓約事項として職員に徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの望む生活には違いがある為、本人の気持ちをくみ取り日常の会話でも、希望を引き出せるような会話を心がけている。又、自己決定が難しい場合でも選択肢を提示して少しでも本人の望む生活に近づけるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや好みを把握し、それに応じた声かけのタイミングや方法に配慮している。食事や外出の際の組み合わせにも、常に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行けるような支援や外出の際には、外出用の服装になるように支援している。祭りやイベントの時は、家族と連絡しながら、季節や希望に合わせた服装が着られるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・食器洗い等も、出来る限り利用者の意見を取り入れ、任せきりにならず一緒に行なう事や、楽しめるように声かけを行っている。又、方法や一緒に行う範囲をその方が無理なく出来る範囲にする等、工夫をしている。	隣接する同法人特養の厨房で作られた食事が3食共にホームに運ばれ、職員と利用者が一緒に盛り付け、配膳しています。献立は利用者の好みや希望を把握し給食委員会で検討した後、同法人管理栄養士が作成しています。利用者の嚥下状況を考慮したきざみ食、熱いもの、冷たいもの等、好みや状況に合わせて提供しています。ホームではおやつ作りを中心に利用者の希望に沿ったメニューを作成し、利用者が調理を楽しめるようにしています。冬に向けて「干し柿作り」をするのも毎年の楽しみごとになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が作成したメニューを提供している。10時と3時をおやつ時間に決め、1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する等している。又、定期の時間に囚われず本人の摂取しやすいタイミングを考慮し、水分補給も行なっている。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>利用者の状態に合わせ、毎食後声かけや見守り・一部介助の支援を行い夜間は義歯の洗浄も行なっている。協力医療機関、歯科衛生士のアドバイスを受けながら、1人1人にあった口腔ケアを行うよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンの把握、本人に合わせた時間での誘導を行ない、自ら訴えが表現しにくい方も、自然にトイレでの排泄が出来るように努めている。また、食事や水分の摂取や日中の活動にも配慮している。</p>	<p>ホームでは利用者の排泄状況を把握し、一人ひとりの排泄パターンとして記録に残し支援に活かしています。約半数の利用者は排泄が自立に近い状況で、就寝前や起床時に声かけをすることで失敗も無く過ごさせています。職員はサービス担当者会議等で排泄支援について話し合い、誘導、見守り、介助、夜間のポータブルトイレ対応、便秘を予防し自然な排泄を促す等、利用者一人ひとりに合わせたプランを検討し、利用者の安全と清潔に配慮しながら自立支援を進めています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自動販売機にコーヒーを買いに行く等、ただ歩くだけの散歩にならないように工夫し、運動への参加を促している。又、1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する事や毎食事時だけでなく、水分摂取量の少ない方には、小まめに水分摂取を促す事で水分摂取量の確保に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴時間を夜間にする事で、少しでも今までの生活に近づけるようにしている。又、本人の要望により入浴されない場合、無理強いせず日にちを改める等、本人のペースに合わせてられるよう配慮している。</p>	<p>ホームでは週2回の入浴を基本に、夜間の入浴支援を行い、利用者の安眠につなげています。利用者の身体状況を考慮して足浴やシャワー浴を行うこともあります。体調の変化等で入浴予定日に入浴できない場合には臨機応変に日程を変更しています。入浴を好まない利用者には無理に勧めず、タイミングを見て声かけを行い、気持ち良く入浴してもらえるようにしています。季節にはゆず湯等を用意して利用者が楽しめるようにしています。お風呂は2人が一度に入れるように広く大きく作られており、気の合う人との入浴も可能です。</p>	<p>希望に沿って入浴回数を増やすことも検討してはいかがでしょうか。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜には照明を落とし、眠りを妨げないよう必要以上には物音を立てないようにしている。夜間が十分に休めていない時には、本人の様子に合わせて休息を促し、その際は居室の室温や換気に注意している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師からの説明を理解し、共有している。薬の変更がある場合は家族に現状と、効能や副作用についても伝えている。また、利用者の状態に変化がある時は経過を速やかに相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の希望や能力に応じて調理等の家事・畑仕事など役割分担している。又、個々の生活歴や趣味嗜好を理解し、外出・習字や歌う事等、希望に合わせて楽しみを提供するようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じ、外出機会を得られるように計画。随時、散歩やドライブに行き、畑・ベランダ園芸など個別支援にも心がけている。また、本人の希望に合わせ、買い物への外出や家族へも働きかける様にしている。	ホームでは利用者の日常的な外出支援に力を入れています。天気の良い日には外に出てホーム周辺を散歩したり、ドライブしたり、スーパーへ買物に出かけたりしています。同法人デイサービスセンター利用の知人を訪ねたり、隣接する特養に入居中の家族を訪問したりして、利用者一人ひとりの気持ちに沿った支援をしています。年間を通じては、花見や紅葉見学など、各種行事を企画して利用者が楽しめるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己決定を尊重し、希望や能力に応じて一緒に買い物に行き、支払いをして貰っている。家族とも金銭に関わるトラブルと金銭を使う意味を話し合っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎや、公衆電話に電話をかけに行ったり、年賀状を出したりと、家族や大切な人とのコミュニケーションが取れるようにしている。また、携帯電話を持参されている方もおられ、自由にコミュニケーションが取れる環境が出来ている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを開け自然の光を取り込み、閉塞感が無い様に外の景色が見渡せるよう配慮している。玄関には季節の花を飾り、季節に応じた飾り付けを行っている。台所では食事毎に調理の音や匂いがするなど、利用者が居心地良く過ごせるよう、家庭的で馴染みある雰囲気作りを心がけている。	ホーム専用玄関は1階にあり、利用者は主にエレベーターを活用して、2・3階のユニットに出入りしています。ユニット玄関には季節を感じられるよう、紅葉の貼り絵で彩るなどの工夫をしています。玄関を入るとアットホームなりビングルームが広がり、利用者が調理や食事をしたり、歓談したり、新聞を読んだり、レクレーションを楽しむ等の場になっています。居室に続く廊下は日当たりが良く、各所に長椅子を置いて利用者がくつろげるようにしています。ベランダには利用者と職員が作った大きな干し柿がつるされています。隣接する特養に続く出入り口には広いスペースがあり、ソファやテーブルを置いて利用者や家族、来訪者が活用できる喫茶コーナーにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が落ち着く雰囲気を持てるよう、何ヶ所かに椅子やソファを置くことで、各々が好みによって使えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやテーブルセット、食器、趣味の物等を持って来て頂き、落ち着いた環境が提供出来る様に家族協力もお願いしている。ベッドや家具だけでなく仏壇も、本人の希望に応じ、配置している。	居室には表札をつけて自室を分かりやすく工夫しています。室内には備え付けのクローゼットやタンス、ベッドがあり、利用者は自宅から使い慣れた家具や、寝具、仏壇、机や椅子、パソコン、テレビなどを持ち込み、住み心地よく整えています。さらに、絵画、時計、お花、人気歌手や家族の写真、書道作品、小物類などを飾って、その人らしい個性豊かな部屋にしています。職員は利用者と共に室内を整え、タンス等に何が入っているかを分かりやすく表示し、空調にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器の洗い方を表示したり、入浴時の洗剤に「頭」「身体」等の表示を行っている事で、今までの生活の中で当たり前に行っていた事を自然に出来る様に支援している。トイレにもボタンの表示を行い、整理タンス・洋服タンスに、衣類の分類が分かるように表示する等、工夫している。		